

令和元年 9月 6日  
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題 吉賀町で水田活用園芸拠点づくりに向けキャベツ栽培がスタート

(ダイジェスト)

吉賀町では今年度、次代を切り開く水田活用園芸の拠点づくり事業と園芸型高収益作物導入実践事業を活用し、水田活用によるキャベツ栽培に取り組みます。

当町で本格的にキャベツ栽培に取り組むのは初めてであり、普及部では実証ほを活用しながら技術習得、生産性向上対策の確立を図り、キャベツ栽培の推進を支援します。

吉賀町では今年度、吉賀町農業再生協議会が事業実施主体となり、次代を切り開く水田活用園芸の拠点づくり事業を活用し、キャベツ、ミニトマト、ブロッコリー、アスパラガスの4品目で構成される拠点産地づくりを行う計画を立てました。

中でもキャベツ栽培は当町で本格的に取り組むのは初めてであるほか、集落営農組織が水田ほ場整備後に高収益作物として3haの大規模栽培を行う計画もあることから、園芸型高収益作物導入実践事業を活用した実証ほを3ほ場(集落営農組織代表者、認定農業者、新規就農者)に設置し、栽培の基礎から研修してもらうこととしました。

この取組にあたっては、吉賀町農業公社が共同育苗の試行を実施しているほか、8月8日に農業技術センター野菜技術普及課、土壤環境科から講師を招き、実証ほ設置農家や関係機関を対象としてキャベツ栽培・排水対策研修会を開催し、併せて、JAしまね本店と加工業務用出荷に向けた検討会も行いました。

研修会では、座学による栽培基礎の習得と実証ほ設置予定ほ場で島根版「排水対策早見表」を用いたほ場診断や土壤物理性診断を行って適切な生産対策を導き出し、生産者の排水対策、土壤物理性改善に対する意識向上を図ることができました。

普及部としても、実証ほを活用してキャベツ栽培技術の習得、生産性向上対策の確立を図り、水田を活用したキャベツ栽培の導入が促進するよう関係機関と連携し支援していきます。



【キャベツ栽培研修会】



【ほ場でのほ場診断】